

自分の考えを整理・深化させる活動の工夫

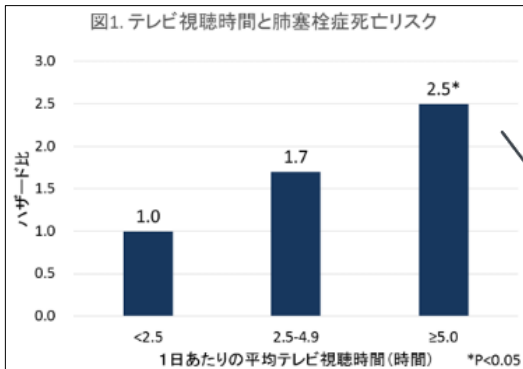
研究を考察し，日常生活と結びつける展開

生物の学習に対する有用感を得られず，考査のためだけに用語を暗記することが目的となっている生徒がいます。生物では実験が難しい単元において，知識の伝達に偏重した授業になりがちです。そこで，関連する研究データを考察し，学習内容を活用させる授業を展開します。研究結果から分かることを日常生活と結びつけて考えさせることにより，理解の深化と学習に対する有用感を高める実践です。

○授業の展開において…

ポイント！ 学習内容に関連する研究を教材として活用

例) 血液凝固



この研究結果から分かることは何でしょう？

なぜ，このような結果になったのでしょうか？



テレビを見る時間が長いほど，
血栓で亡くなってしまいうリスクが高いね。

血液の流れが悪くなると，血液凝固が始まり，血栓ができるんだね。テレビを見るときには座りっぱなしのことが多いから，血栓ができやすいのではないかな。

テレビを見るときに限らず，飛行機で移動する場合など，長時間同じ姿勢でいるときは，血液の流れを良くするために途中で適度な運動をした方がいいね。

アクティブ・ラーニングの視点による授業改善のポイント

- ・学んだ知識を研究の考察や日常生活の場面に活用させることで，深い理解につながります。その際，自分の考えを形成させた上で対話活動を行うことで，他者の考えにふれ，考えの広がりが期待できます。
- ・観察・実験を行いきにくい単元においても，探究の過程を取り入れた授業を行うことができます。